

現在住んでいる神奈川県川崎市から帰省した際にシェアオフィスを使っています。とても眺めがよく、仕事をしながら外の景色を楽しめることや、ランチやセルフカフェが楽しめるところが気に入っています。いずれ安曇野に戻ってきたいと考えて



シェアオフィス利用者
森田 貴之さん

るので、地域とのつながりをつくるきっかけにもなれどと期待しています。

i 龍門測てらす

北アルプスを望む絶景のシェアスペース。シェアオフィスやシェアキッチン、イベント、クラフトや食品の販売などさまざまな利用ができます。

場所 ▶ 明科中川手3839-2

営業時間 ▶ 午前9時~午後5時

☎090-4002-9921

✉uzumaki.akashina@gmail.com

- ①シェアオフィスで打ち合わせするうずまきメンバー
- ②オープンスペース
- ③外観
- ④イベント予定が掲示された看板
- ⑤クラフト作家による展示販売
- ⑥シェアキッチン
- ⑦入口には持ち込まれたショップカードが常時60種類以上並び



横内 健人さん(明科)
合同会社うずまき代表
会社経営

横山 正さん(明科)
元市役所職員

中村 滋宏さん(穂高)
建築設計事務所代表

高井 健慈さん(三郷)
建築設計事務所代表

山崎 雅子さん(明科)
カフェ経営

国道や駅があり、かつて交通の要所として栄えた明科地域。平成7年に1万15人いた人口は、現在70人にまで減り、一部過疎地域に指定されるなど、市内の他地域に比べて人口減少・少子高齢化が進んでいます。そんな中、地域が抱える課題に立向かい、地域の魅力を磨き、次世代に継承するための取り組みが広がっています。今回の特集では、特に明科駅前に注目し、「まちをもっとよくなりたい」と取り組む人たちと、そこから生まれる力に迫ります。

特集
今、明科駅前が面白い



明科駅前からほど近い場所があります。地域に交流の場を創ろうと令和3年夏に誕生したこの場で、さまざまなチャレンジが生まれています。龍門測てらすを運営する合同会社うずまきの5人に話を聞きました。

空き家の活用
まずは自分から

明科駅前の改修工事に伴い、「自分たちのまちの形を自分たちで考えていこう」と立ち上がった明科駅周辺まちづくり委員会。横内さんはその空き家対策部会メンバーとして、長野市などで行われていたまちあるきイベントを参考にし、平成28年に「明科駅周辺まち歩き空き家空き店舗見学会」以下、空き家見学会」を始めました。6回ほど開催してみましたが、なかなか参加者が集まらず、さらに明科を盛り上げるための意見交換会で空き家見学会を紹介したところ、「具体的に空き家を解消した事例がない」と参加者から厳しい指摘がありました。

この出来事から、「ただ他のまねをするのではなく、明科の魅力を生かしたまちあるきにしよ

う」「まずは自分でお金や労力をかけて空き家活用のモデルケースを作ろう」と一段と気合が入った、と横内さんは当時を振り返ります。そこで、空き家見学会に当初から参加し建築に詳しい高井さんと中村さん、自宅でカフェを開き、居場所づくりをしている山崎さん、市職員として都市計画に関わってきた横山さんと共に合同会社うずまきを立ち上げました。知人や地域住民の手を借りながら空き家をリノベーションし、1年後に「龍門測てらす」をオープンしました。

明科のじぎわいが
うちまじも続くよこじ

高齢化や後継者不足で閉店するお店が増え、近所づきあいが希薄になり、徐々に地域の活気が失われていると感じていた横内さん。「明科で空き家を使って事業を行いたい人を支援することで、にぎわいの減少や空き家の増加といった地域の課題に取り組みたい」。そんな思いを持ちながら、龍門測てらすを運営しています。運営で心掛けていることは、持続できるということ。地域課題の解決にはボランティアによる活動ももちろ

ん重要ですが、それだけでは効果的な取り組みを継続していくことは難しいと実感していました。そこで、仕事としてこれらの課題の解決を目指す仕組みを作ろうと奮闘しています。そして、「地域住民の力で課題に取り組みきつかけをつくりたい。そのためにも、明科の魅力を発信する拠点、地域のことを知り、人が顔を合わせることでできる場所、やりたいことにチャレンジできる場所が存在することが重要」と考えています。

思わぬじぎわ
広がる活用の輪

そのために、「やってみよう」を実践できる場を目指し、活用を呼び掛け、人が集まる機会や仕掛けを作ってきた5人。そして、「自分たちが声をかける以上に、利用者の口コミが新たな利用者呼び、やりたいことにチャレンジしてくれて、想定外に面白い空間に発展している」と話します。

位で貸し出すシェアキッチンは、飲食店起業に向けた腕試しの場として人気で、今ではランチ営業など月に20日程度利用されています。ランチ目当てに人が来るようになり、その後、少しずつマルシェなどのイベントスペースや情報発信の場所として活用されるようになっていきました。

最近では、空き家活用を考える移住希望者や創業希望者からの相談も増えてきています。龍門測てらすで菓子などの製品を販売しながら経験を積み、店舗経営に進んでいく人もいて、クラフトや食、イベントでの創業支援につながっていることにやりがいを感じていると言います。「市内はもちろん、市外から来る人も多く、これまで明科に接点が無かった人も含め、人が訪れ交流を通じて新しいものが生まれる場になっています。職業や経歴、性格の異なる5人が共同で運営しているからこそ、幅広い関わりしろを作れているのかもしれない。無理せずゆるゆると、続けていきたいと思います」と5人は笑います。

NEXT

龍門測てらすを活用する皆さんにインタビュー